



いわき市

取材協力  
社会福祉法人 希望の村株式会社  
あとリエ北山  
〒970-8026  
いわき市平字町1-4-3  
TEL (0246) 35-5789



あとリエ北山のスタッフと利用者の皆さん。いつもの笑顔でパチリ(写真右)。あとリエ北山はいわき市の住宅街の一角にあり、中はおしゃれなカフェ・ギャラリーコーナーとなっており、イラストレーターなどの開催が年に5~6回開催されています。

## ドーナツでつなぐ、まあるい絆 ~あとリエ北山の移動販売~

### 震災後も誰一人 辞めることなく事業を継続

「私たちの法人には就労継続支援B型事業の事業所が3つあり、その一つがあとリエ北山です。同じくB型の工務けやきではお豆腐を作って販売しているのですが、そこで取れるおからや豆乳などを使って、ここではドーナツやお菓子などを作っています」と教えてくれたのは、管理者の木村浩昭さん。

あとリエ北山は平成16年4月に精神障がい者の小規模作業所として開所し、現在の登録利用者は34名。利用者は自分の体調や症状などに合わせて、週に1回~3回のペースで活動しています。「震災後はやむを得ず2週間ほど活動



あとリエ北山管理者の木村浩昭さん。「震災を経験したことで、地域とつながることの大切さを一層目覚めました」。

いわき市にある「あとリエ北山」では、豆腐やおからを使ったドーナツをはじめ、お菓子やお惣菜など様々なものを作っています。事業所の中はおしゃれなカフェ・ギャラリーコーナーになっており、地域との絆を育むスペースとしても利用されています。震災から1年、現在の活動についてうかがいました。

を休止しましたが、3月下旬には再稼働することができました。利用者さんにとって生活のリズムや睡眠、服薬管理はとても大切なことなので、避難中は体調の変化もあったのではないかと感じます。それでも、震災が原因であとリエ北山を辞めるという方は一人もいませんでした。精神障がい者の就労支援について木村さんは、「日々、職員は利用者一人ひとりを見て、コミュニケーションを図っています。病気の配慮、指示や作業環境の明確性など、対人面や環境面での配慮が必須です。その上で、これまで利用者一人ひとりの歩んできたことや今後の希望を尊重し、利用者も職員も同じ労働者として、対等の立場で接することが大事だと感じています。働くことには責任が伴います。働き給料を得ることで、利用者が達成感や喜びを感じ、自信を持ってもらえたらと思っています。それが病状の安定化にもつながっています」。

※一般企業等での就労が困難な人に働く場を提供するとともに、知識や能力の向上のために必要な訓練を行う。



クッキーの生地づくりの様子。スピードと手際の良さはまさに職人クラス。

### 仮設住宅でも大人気 豆腐とドーナツの移動販売

あとリエ北山では、自分たちの活動を地域にもっと知ってもらおうと、商品の移動販売を行っています。スタッフの一人松本善孝さんは、利用者さんとペアになって市内各地を回っていますが、最近は仮設住宅にも何回も回りました。「お昼前に商品をどっさり車に詰め込んで、戻るのは夕方4時過ぎくらい。いわき市には検査町の仮設住宅があるのですが、私は以前、同じ法人の棟梁町にあった「ふたばの里」に勤めていましたので、見知った顔ぶれに会えるのは嬉しい限りです。仮設住宅の皆さんからは、木村さんは、親方、私は、センちゃん、って呼ばれていて、会話も思わずはずみです。逆にエネルギーをもらっている感じがすね」と松本さん。地域とのコミュニケーションについてうかがうと、「授産施設というものを自分もこの職場に働いていなかったら、きっと知らなかったと思います。でも移動販売で外に出て



スタッフの松本善孝さん。「移動販売で感じることは人との出会い。お客様の笑顔にこちらも癒されています」

ご近所の方や友だちと会って、実はこういう仕事なんだよと言うと、よく分かってもらえる。事業所の中だけではなく、外でたくさんの方々とふれあうことで事業所の知名度も上がると感じます。昨年11月には、日本財団から助成された移動販売車が新戦車として仲間入り。その場で揚げアツアツのドーナツは、お客様にも大好評です。

あとリエ北山では、地域のニーズに添えていくと、ドーナツだけではなく新商品の開発にも力を注いでいます。お豆腐のこま団子、揚げ豆腐を練り込んだ白玉団子、おから茶などの定番商品に加えて、おからサラダサンド、おからナゲットといったお弁当の分野にも手を広げ、顧客の獲得をめざしています。「こんな商品ってどうかな?ってアイデアをスタッフのみんなに話すと、いつの間にか試作品ができてたりして...。スピードとチームワークの良さは私たちの自慢ですよ」と松本さんは笑顔で浮かべます。

### 福祉プラス経営の考えで、 新しい絆をつないでいく

震災以降、試行錯誤を繰り返しながらも一歩ずつ前に進み、あとリエ北山と地域との絆はより一層強くなりました。今後の展望について木村さんは、「ここに来ている利用者さんは一般就労がなかなかできなくて、それでも働きた

いという意欲のある方ばかりです。とはいえず、これまで売上げが思うように伸びずお給料を下げなければならぬこともあり、私たちが断腸の思いでした。しかし、移動販売や商品ラインナップを増やすことで売上げも少しずつ伸びてきました。今後は自分たちが一つずつ積み上げてきた経験や努力に見合うお給料を出せるように工夫していきたいと考えています。経済活動と結びつくことで、地域の障がい者への理解にもつながるし、利用者さんの所得補償にもつながっていきます。最終的には精神障がいの方々が暮らしやすい地域になればいいと思います」。

福祉の職場でありながらも、調理の仕方や販売方法、宣伝など、経営の話も聞きなさい、あとリエ北山の皆さん。4月以降の新商品の計画をこっそり聞いてみると、豆腐の焼製を試作中なのだから。そう遠くない日に、新しいおいしさがお目見えする? かもしれせん。



地元スーパー「マルト」の駐車場を借りて販売。揚げ立てのドーナツはいつも大人気!

行ってきまーすよ



日本財団から寄附を受けた移動販売車。イラストは県内外で活躍している比佐健太郎さん(いわき市在住)によるもの。

こちらも移動販売車。注目度バツグンで一度見たら忘れられない!